

3週間の

島ぐらし日記



自己紹介

私は関西学院大学3年生の齊藤です。

2018年7月中旬に岡山県笠岡諸島にある“NPO 法人かさおか島づくり海社”にインターンシップに行かせていただきました！！

笠岡諸島、島づくり海社、島おこし、島暮らしなどに興味のある方に少しでも島の魅力を伝えたいと思います！！

北木島上陸！

岡山までは新幹線で40分、岡山から笠岡まで電車で50分、笠岡港から北木島までフェリーで50分、計2時間半ほどかけて行きました。

フェリーの乗客は10人ほどで車や大きい荷物なども同時に運ばれます。2階が客室になっていてクーラーやテレビもついていて快適です^^フェリーによってはスロット台などがついているのもありました！（動くのかは分かりませんが…）フェリーの中では島民同士でわいわい話されていました。

島の方は親切な方ばかりなのでどこで降りればいいのか尋ねるとそこについたら教えてあげると言ってくれ、気さくに話しかけてくれました！初めての場所に不安でいっぱいでしたがいろんな方のおかげで無事到着することができて良かったです！！



デイサービスすみれ(北木島編)

インターンシップ初日。笠岡諸島最大の島、北木島にある“デイサービスすみれ”でお手伝いさせていただきました。すみれでは利用者の方に寄り添いながらお食事や体操などのサポートをし、休憩時には利用者の方と一緒にテレビを見ながらお話ししたり作業をしたりして交流をしました。

デイサービスの利用者は1日7,8人程度、スタッフの方は4,5人で、調理係、送迎係、入浴係、その他レクリエーションなどをする係にわかれていました。

最初緊張して全く自分から話しかけられなかったのですが、利用者の女性の方が「どこからきたの？」などと声をかけて下さり、少し打ち解けることができました。

島という狭いコミュニティの中にあるデイサービスだからこそ利用者の方同士仲が深まり、利用者の方とスタッフの方との信頼関係も生まれアットホームで落ち着いた空間になっているのだと感じました。

* 笠岡よっちゃんれ *

毎年笠岡で行われている“笠岡よっちゃんれの夜”というお祭りに参加させていただきました。毎年笠岡の市役所通り一帯で行われているお祭りで“よっちゃんれ”という盆踊りを様々な団体が踊りコンテストが行われています。

島づくり海社は今年初めて各島の方 10 名ずつ程で集まり約60人ほどで参加しました。島ごとで色が分かっているはっぴを着て私も一緒に踊らせていただきました。カラフルなはっぴが道中に広がっていてきれいな景色で、島づくり海社はなんと初出場にも関わらず“準優勝”をいただきました！！



終わったのが22時を過ぎていて、帰りの船の定期便はもう終わってしまっているので、島づくり海社の方たちが知り合いの漁師の方などに頼み、手配していただいたので、各島に帰ることができました。各島の方たちが集まって、一つのイベントに参加することはなかなかないことだと思うし、島を知ってもらい良いきっかけになったのではないかなと感じました。

* 宿泊研修 at 石切りの杜 *

毎年行っている神戸の学校の4泊5日の宿泊研修の受け入れのお手伝いをさせていただきました。場所は北木島にある“石切の杜”という昔小学校だった場所を宿泊施設と高齢者住宅に改装したところです。宿泊研修の受け入れは10年ほど前から行って石切りの杜宿泊施設が出来る前から受け入れています。この宿泊研修では午前中は授業があり、午後から海水浴やいかだづくりなどの体験を行っています。

私は午後からの体験プログラムの準備をしたり、調理場で食事の準備を手伝ったりしました。生徒と先生をあわせて140人くらいの参加者がいるのでご飯を準備するにもそれぞれのプログラムの準備をするにもとても大変でした。

私は時間が空いた時などは調理場によく行き、お母さんのお手伝いをしていました。島のお母さんはとてもパワフルで静かな時間がないぐらいずっと誰かが喋っていてにぎやかでとても楽しかったです！！

島づくり海社のスタッフの方だけでは人数が足りない部分も、漁師の方や島のお母さんたちが一緒になって様々なプログラムを提供したり、ごはんを作ったりして「せっかく島に来てくれたから楽しんで欲しい！島の魅力を伝えたい！」という同じ思いがあるからこそ大変だけれども支え合いながらやり遂げることができたのかなと思いました。



毎年恒例の紙テープで
お見送り！！
私は人生初の紙テープで
した笑

* デイサービスうらら(真鍋島編) *

2週間目からは“猫の島”で有名な真鍋島に滞在しました。真鍋島は北木島に比べると規模が小さくこじんまりとした島なので私も何日か滞在しただけで島の方々と顔見知りになることができました。

真鍋島では主に“デイサービスうらら”でお手伝いしました。デイサービスうららでは利用者の方は7,8人でスタッフの方は5,6人でした。また、夏休み期間中なので真鍋中学校の生徒たちもボランティアとしてお手伝いしていました。

うららの利用者の方は北木島のデイサービスの利用者の方よりも介護度が高い方が多く、北木島のデイサービスではのんびりと一緒にテレビを見たり工作をしたりする時間が多かったけれど、デイサービスうららでは暮らし続けてきた島でずっと暮らしたいという願いを叶えるべく、自分の足でずっと歩くことができるようにその方に合ったりリハビリや100歳体操という100歳まで生きられるようにと足、腰、手に重点を置いた体操を行っています。

また、全員がお昼寝タイムを取っていたり入浴があたり普段家で行っていることをデイサービスで行うことによって自宅で老老介護を行っている家族の負担を少しでも減らす役割を担っています。

島には診療所があるけれど毎日診察しているわけではなく、緊急の場合も診察してもらえない状態で、緊急の場合は海上タクシーに乗せて本土の病院まで運ばなければいけなく、本土に比べて早急な対応ができないので、島の高齢者の方にとって予防介護はとても重要です。



体操の時間、私も利用者の方の横についてサポートしました。耳が遠くて指示があまり聞こえない方には横について耳元で分かりやすく指示したり同じ動きをしたり動かす体を触ってあげてサポートしました。できるところは自分でやってもらうということを意識してサポートしました。

島のデイサービスで働いている方の中には昔島に暮らしていて自分の育った島のために役に立ちたい！という思いで働いていらっしゃる方が何人かいて、昔島でお世話になった大人の方たちにその当時の子どもたちが今度はデイサービスで逆の立場になって恩返しするのは素敵だなと思いました。

* 真鍋島のお祭り *

この夏祭りの主役は真鍋中学校、小学校の生徒たち、先生たちで、早くから集まって野菜を切って準備をしたり、机のセッティングなどをしました。お祭りには地域の方がたくさん来ていて、島の子どもたちと高齢者の方が交流する良い機会になっていて、島の中でのつながりがよりいっそう強くなり、若い人高齢者がお互いに安心して暮らせる島づくりにつながっていると感じました。

子どもたちや先生以外にも、漁師の方が魚を丸ごと焼いて売っていて、お祭りではなかなか見られない光景で島ならではの光景でした♪笑

また、学校の先生と島の方が仲が良く、私の住んでいる地域では先生と地域の方がかかわる機会がほとんどないので、新鮮でした。

島の子どもたちがデイサービスのボランティアや島の夏祭りを通して高齢者の方と交流する機会が多くて高齢者の方と子どもたちの距離が近いところも島ならではの良さだと感じました。



地域の方がたくさん
集まっています♪

* 六島探索 *

六島は笠岡諸島の中で最も人口が少ない島です。ですが、水仙や灯台が有名で水仙の季節になるとたくさんの観光客が訪れるそうです。六島に滞在している間、小学校や灯台、ゲストハウスとカフェがある島小屋というところなどに行き島めぐりをしました。



六島の全人口は70人より少なく、子どもの人数は7人で島の小学校に通っているのがそのうちの3人です。小学校の敷地内には島づくり海社が運営しているあゆみ園という保育所があり、そこを利用しているのも1人です。六島にはデイサービスもなく、診療所も週に1、2回しか回診していないので、介護が必要な高齢者は島を出て暮らすしかない状況です。自分の生まれた島で暮らし続けたいというのはどの島の人たちも共通の思いだと思うけれど、人口70人の島に介護施設を作るのは難しいのかなと感じました。

島中には“ブイネコ”という案内用の目印のような使わなくなったブイで作ったネコがたくさんいました。これは島の子どもたちが島を訪れた方がわかりやすいように作成したもので、ブイネコマップというブイネコを使った島の地図も作成していました。



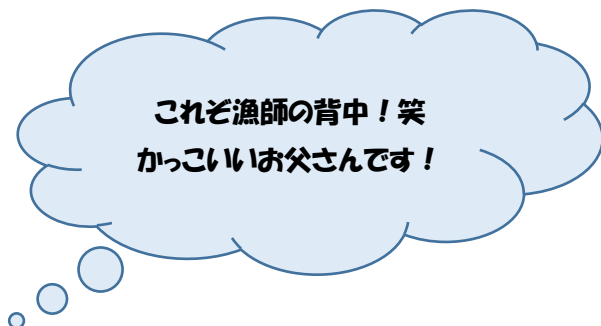
六島に滞在中、天理教六島文教会さんに泊めてもらいました。高台におうちがあったので眺めも良く家のすぐ下にビーチがあり、夏はプライベートビーチとして潮干狩りをしたりしていると教えてくれました。最終日には家族の皆さんでバーベキューをしてくれて美味しいお肉をたくさん食べました！！帰るとき船着き場まで一番小さい子どもが見送ってくれて恥ずかしがり屋さんであまり話せなかったけど最後にキーホルダーと笠岡フェリーのマグネットを小さい巾着に入れてプレゼントしてくれました！かわいい少年でした^^

空いた時間には島のおじさんたちのたまり場である島小屋によく行かせてもらい、かき氷を作ってもらったりおじさんさんたちと世間話したりしました。島のおじさんたちはみんな元気で毎日のように集まってみんなでワイワイやっているそうです。島の見守りの役割もしていて、一人暮らしの高齢者のお宅を訪ねたり、救急の場合は船で病院まで運ぶこともあるそうです。

人口が少ない島だからこそ人を呼び込むために様々な工夫をしていたり、近所の人同士でそれぞれを見守っていたりして、島の方たちみんなで島を守っているのが伝わってきました。

* たこつぼ漁(真鍋島編) *

真鍋島に滞在中、泊まらせてもらっていたお家のご主人が漁師さんで「せっかく来たんやし！」ということで、“たこつぼ漁”に連れて行ってもらいました！人生初の漁でウキウキしながら、つなぎと長靴を着せてもらって、船に乗せてもらい、すぐにたこつぼ設置ポイントに着きました。



どんどんたこつぼが船の上に引き上げられ、つぼの中を見ていると何個かに一つのつぼの中にタコがはっていました！！急に水の中から引き揚げられたタコがつぼから出ていくのを見ていたら、「つかんで船の下に入れて！」と、つぼを引き上げているお父さんに言われ、慌ててタコを掴みましたが、船の床にすごい力で吸い付いていたり、私の腕に巻き付いてきたりしてきてとても焦りました。最後のほうになると掴み方のコツも分かってきて楽しかったです。めったにできない体験をさせていただいていい思い出になりました！

* 真鍋島探索 *

真鍋島は“猫の島”と呼ばれるくらいネコがたくさんいて、人馴れしているので近寄っても全然逃げません。土日にはネコ目当てに観光客の人も来ていました。

回漕店の近くでエサが貰えるので回漕店の周りには10匹ぐらいいつもネコがいました。



真鍋島を探索していると広い公園を見つけました。芝生や遊具などがあり子どもたちが遊ぶには最適です！ベンチもあって夕暮れになると夕日がきれいに見える絶景ポイントです！



デイサービスで会った島の中学生にいろいろ島を案内してもらいました。普段通っているという真鍋中学校に連れてきてくれました。真鍋中学校は昔のままの木造校舎が今も残っているので床がギンギンいたり台風の際は潰れるんじゃないかいつもソワソワするんだと教えてくれました。

中学生は全部で3人、同じ敷地内にある小学校にも3人が通っています。このような小規模教育は、先生と生徒一人ひとりとじっくり関わったり、個人に合わせて授業のペースを変えたりできたり、学年の垣根を越えて交流できたり、生徒同士仲が良かったりたくさんのメリットがあるなと感じました。だけど、生徒たちは人数が少ないと寂しかったりするときもあり、月に何回か別の島の生徒と交流する機会がありそれがとても楽しみだと話していました。



インターンシップの終わりのほうに真鍋島の3家族の方が送別会を開いてくれました。みんなで漁師のお父さんの船に乗って香川県まで連れて行ってってくれました。島の方たちは家族同士で仲が良く、一つの大家族の中にいるみたいで楽しかったです。

お店ではお寿司やお造りなど新鮮な海の幸をたくさんいただきました。島でたくさんいい出会いができて本当に良かったと感じました。



* あとがき *

笠岡島づくり会社のさまざまな事業に関わらせてもらってすべてが収益につながるわけではないけれど、島の人たちのために少しでも需要がある事業は続けているからこそ、島の人たちに信頼される島に無くてはならない存在なんだと感じました。

島の方たちはみなさんフレンドリーで島の方同士のつながりが強く、支え合って見守り合いながら暮らしていると感じました。短い島暮らし期間でしたが、たくさんのひとの温かさに触れられることができました。

このしま暮らし日記を通して少しでも笠岡諸島の魅力が伝わり、行ってみたい！と思っていただけたら嬉しいです。ご拝読ありがとうございました！

2018年11月